

## 道の話

弓削 比紗英

サンペドロ・デル・パラナ市派遣の家畜飼育隊員、弓削です。  
前回のブログで渥美隊員から巡回の話がありましたが、  
私からは巡回の際の移動についての話をひとつ。  
私たち家畜飼育隊員3名は、活動の為に JICA からバイクの貸与を受けています。

そのため、巡回の移動手段もバイクとなります。  
ます・

だから雨の日は酪農家巡回もお休み。  
雨の中の運転は危ないし、酪農家も雨の日には早く仕事を切り上げたい、という人が多いです。



翌日、晴れた！よし、酪農家巡回に行こう！と思って、簡単に行けるか？  
実はそうでもありません。  
今度は道との相談です。

ここパラグアイでは、都市部や主要国道は整備も進んでいますが、  
田舎ではまだまだメインは土の道。  
私の任地を通る国道も今ではきれいなアスファルト舗装の道ですが、  
つい5年ほど前までは、すべて土道だったようです。  
土道に雨が降るとどうなるのか・・・



泥と水たまりの道の出現です！  
泥の中でのバイク運転は滑るし、バランスも取りにくく、危険。  
水たまりだって、水が濁っているため水たまりの中の状況がどの様になっているのか、  
深さは？というのが全く分かりません。

酪農家の搾乳風景を見るためには夜明け前に家を出なければなりません。田舎道には街灯も存在しないので、頼りになるのはバイクのライトのみ。バイク貸与を受けた時に備わっていた電球が切れ、任地で交換してからは、パラグアイオリティーなのか、全く頼りにならないライトです……。日中であれば酪農家に着くため！と思えば、この写真の様な道も臆することなく通っていきますが、真っ暗な中ではさすがに怖いので、もう少し道が乾いてから。酪農家訪問は延期です。

しばらく経って、3日～4日あれば道はだいたい乾いてきます。

しかし、乾いているから良い！というわけではありません。数日晴天が続くと、今度は砂の道の出現です！



砂浜の様にサラサラとした砂が行く手を阻みます。泥や水たまりと違い、比較的長距離続くのが厄介な点です。

この他にも、石がゴロゴロ転がっている道、土の浸食が進んでボコボコの道、バイクだとなんとか走れる幅しか残っていない道など、ただ「道」といってもたくさんの種類があることにパラグアイに来て気づかされました。

この様な道でもパラグアイ人はバイクに乗って、二人乗り、たまには三人乗りでも、私には信じられないほどのスピードで駆けていきます。

怖いもの知らずだからなのか、慣れているからなのかは分かりませんが、追い抜かされながら、すごいなあ、といつも感心します。

私は私らしく、ゆるーく、のんびりと運転していきたいと思いました。